

加藤登紀子さん「七尾ふるさと大使」に ～七尾のことがますます好きに～



2月3日(日)：七尾サンライフプラザ

親戚が七尾に暮らしており、以前コンサートのため七尾を訪れたことがある、歌手の加藤登紀子さん。加藤さんが歌う「能登の夢コンサート」の合間に、聴衆の前で不嶋市長から「七尾ふるさと大使」の委嘱状が手渡された。七尾の魅力を全国に向けて発信してもらう大使として、活躍してもらう。任期は平成27年3月31日まで。加藤さんは「コンサートを通して、七尾のことがますます好きになりました」と笑顔で話した。

第11回鉾打郷土芸能祭 ～地域との絆を深める～

2月3日(日)：鉾打公民館

4年に一度の鉾打地域のビックイベントを心待ちにしていた住民が集まり始まった。今回で11回目となる。会場は大勢の来場者で埋め尽くされた。出し物を披露する各グループは、約3カ月かけて練習をしてきた。郷土芸能では、家の基礎を造る際に地面に石を打ち込む「石場かち唄」が披露。柱を石に打ちつける際に使う愉快的な木遣い歌が会場の笑いを誘った。来場者は、家族や地域との絆を深める機会となったのではないかな。



能登鍋全国優勝 ～全国から注目が集まる～



2月7日(木)：七尾市役所

能登のご当地グルメ「能登鍋」で、まちおこしに取り組む「鍋プロ部」のメンバーが、市役所を訪問。全国の鍋が一堂に会した「第9回ニッポン全国鍋合戦」で、全国から集まった43チームの中から見事初優勝を果たした。出店した能登鍋は、魚介類のだし汁と炭火で焼いた能登豚などが入った「能登豚塩糍鍋」。炭火で焼いた能登豚の香りが人気を呼び、おかわりを求める客が絶えなかった。これから能登鍋の魅力に全国から注目が集まりそうだ。



1月26日(土)：矢田郷公民館

外国人や日本人との料理教室を通して、在住外国人の孤立を防ぐために行われた国際交流。アメリカやシンガポール、中国出身者など約20人が参加した。料理したのは、カワハギのみそ汁とタラの煮付け。参加者は、会話を楽しみながら、初めて触るカワハギの皮をむいたり、煮付けの味見をしていた。アメリカ出身のワン・アリスさんは「カワハギは怖そうな顔をしているけど、おいしかった」と話した。参加者は、お互いの心が通い合ったのでは。

料理教室で国際交流

〜心が通い合う〜



1月20日(日)：能登島公民館

青年層の活動と比べ、地域行事が少ない40歳以上の壮年層。地域活動への参加を促すため、参加しやすい行事を聞いたところ、マージャンの意見が多かったため始めた。4人1チームで点数を競い合いながら、お互いの趣味の話や世間話などで親睦を深めていた。参加した人からは「地域行事への参加するいいきっかけとなった」と話した。参加者は、和やかな雰囲気の中、人とのつながりを深めていた。

能登島校下対抗壮年マージャン大会

〜地域活動への参加を促す〜



2月4日(月)：中島市民センター

数え年で15歳を迎える中島中学校2年生に、大人の自覚を深めてもらう立志式。清水校長からは「義務教育が最終年となる3年生の前に、これまでの自分と向き合い、目的意識を持ってほしい」とエールが送られた。生徒51人を代表して登壇した4人の内、久岡紗希さんは「将来の夢は医療従事者となること。人と関わって人の役に立つことが出来るから」と力強く宣言した。これから生徒には、自立した大人として第一歩を歩んでほしい。

中島中学校立志式

〜自立した大人へ〜



1月29日(火)：北星小学校

学習の一環で、現在約300匹のサケを育てている北星小学校の児童。サケの生態を学習し、命を大切にすることを学ぶ。講師は、石川県水産総合センターの永田房雄さん。サケは、オホーツク海、アラスカ湾など北太平洋を回遊し、生まれ育った場所で産卵することが紹介された。ある児童は「遠い外国まで泳いでいくことに驚いた」と話した。児童は、生き物を大切に育てる心が身についたのではないかと話した。

サケの生態を学ぼう

〜命を大切にしよう〜



2月8日(金)：山王小学校

4月から新校舎となる山王小学校。50年に渡り多くの人に親しまれてきた、校舎への感謝の気持ちを込めて、卒業する6年生が、学校で過ごしてきた思い出を畳サイズのパネルにまとめて作成。全児童の写真や図書館で読書をした思い出を、写真や感謝のコメントにして貼り付けた。児童は「記念に残るパネルをたくさんの人に見てもらいたい」と話した。卒業生の学校に対する感謝の気持ちが、新校舎を使う児童にも引き継がれてほしい。

山王小学校6年生思い出パネルづくり

〜感謝の気持ちを伝える〜



2月5日(火)：池島宅(藤橋町)

5人の子どもに恵まれたと志翁さん。若いときから働き者で、90代前半まで精力的に農作業に励んでいた。と志翁さんが作るトマトやナスなどは、市内の卸売り市場で人気商品だったという。新聞を隅々までチェックすることが日課で、大相撲や国会中継を見るのが大好き。不嶋市長から花束を受け取ったと志翁さんは「こんな立派なことをしてもらって」と今にも泣き出しそうな顔を見せた。これからもお元気で過ごしてください。

100歳誕生日おめでとうございませう

〜池島と志翁さん〜